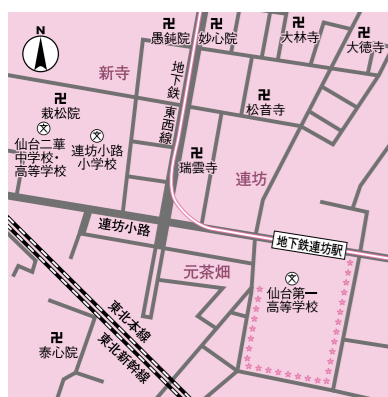


High♥Line Wakabayashi はいらいん若林

みんなでここさ

入らいん!

若林区まちづくり協議会会報 2016.3.1 Vol.19



▲地下鉄東西線連坊駅周辺

奈良時代に建立された陸奥国分寺が隆盛だった頃、現在の木ノ下の門前から連坊小路に沿って二十四の僧坊が連なっていたことから町名が生まれたと伝えられる連坊小路。今回は地下鉄東西線の開業で活気を帯びてきた連坊小路界隈の魅力を探ってみました。

◆参考文献「仙台地名考」若林区地名考(一)「若林の散歩手帖」仙台城下の町名由来と町割(菅井・引地・志子田 記)

連坊駅で下車すると、目の前に東西に長く伸びた大通りが現れます。新旧の店が立ち並ぶ連坊小路商店街です。藩政時代、ここは主に足軽が住む町でした。しかし、俸禄が少なく、野菜作りを始め様々な内職で生計を立てていたようです。中でも町を支えた重要な内職は筆作りで、今も伝統を残す職人の町でもありました。また、駅周辺の日当たりのよい斜面には藩の御茶畑があったとのこと、「元茶畑」の旧町名はこれに由来すると言われます。

連坊小、仙台一高、二華中・高。歴史の重みを感じさせられます。その西隣りの二華中・高「日本女子」の女学校として百年以上もの歴史を刻み、共学の中高一貫校となった現在も、地域の温かい眼差しに見守られるながら躍進しています。駅の南に隣接する仙台一高。歩道からも見える明治の建物旧講堂玄関が、百二十余年の伝統を誇るシンボルです。吉野作造、真山青果ら著名人を数多く輩出する元茶畑の名門校。校庭をぐるりと囲む土手の桜の老木も見所の一つです。

かつて道幅が狭く、店舗が軒を並べていた通りも、道路の拡張に伴ってその装いを一新しました。しかしながら、伝統の手作り七夕は今も夏の風物詩であり、連坊商興会の顔として地域に元気を与えています。その七夕飾りも一時は中断を余儀なくされたとのこと。しかし、平成15年に40年ぶりに復活し、特にここ三年は連続で団体金賞を受賞して、商興会の大きな励みになっていくようです。笹竹は地元のお寺さんから調達、七夕祭りに関連してチャリティ茶会や納涼コンサートを大々的に開催、最近ではバスツアー客を受け入れる等、まさに伝統七夕で地域ぐるみの町おこしです。商興会が65周年を迎えた年に、合わせて地下鉄東西線が開業したのは実に嬉しいこと。昔に比べれば店の数は半分以下に減っていますが、人の流れを変えて商店街を活性化したい」と会長の武田宏さんは声を弾ませて語っていました。

会報の愛称「はいらいん若林」とは

仙台弁の「入らいん(お入りください)」に英語のhigh(ハイ・高い)とline(ライン・路線、進路などの意)とをかさねあわせた造語です。温かさとより高いレベルをめざそうという気持ちが込められています。

連坊駅周辺はまた、長い歴史と伝統を誇る名門校が集まる文教地区でもあります。明治19年開校の連坊小路小学校。明治25年に宮城県尋常中学校として創立し、「大言海」の大槻文彦を初代校長とする現在の宮城県仙台第一高等学校。前身が明治37年創設の東華高等女学校である現在の宮城県仙台二華中学校・高等学校がそれです。

連坊小、仙台一高、二華中・高。歴史の重みを感じさせられます。その西隣りの二華中・高「日本女子」の女学校として百年以上もの歴史を刻み、共学の中高一貫校となった現在も、地域の温かい眼差しに見守られるながら躍進しています。駅の南に隣接する仙台一高。歩道からも見える明治の建物旧講堂玄関が、百二十余年の伝統を誇るシンボルです。吉野作造、真山青果ら著名人を数多く輩出する元茶畑の名門校。校庭をぐるりと囲む土手の桜の老木も見所の一つです。

今も夏の風物詩、伝統七夕
連坊商興会

歴史の庭を散歩しよう
寺町、足軽の町、職人の町

です。その西の方の裁松院は藩祖政宗の祖母の菩提寺、妙心院は政宗の乳母の位牌寺、俳人芝不器男が下宿した瑞雲寺には句碑があります。このように、寺町としての魅力もいっぱいの連坊駅界隈、さあ、歴史の庭を散歩してみませんか。



▲一高旧講堂玄関

若林区探訪 その六

地下鉄東西線開業で魅力再発見 連坊駅界隈

奈良時代に建立された陸奥国分寺が隆盛だった頃、現在の木ノ下の門前から連坊小路に沿って二十四の僧坊が連なっていたことから町名が生まれたと伝えられる連坊小路。今回は地下鉄東西線の開業で活気を帯びてきた連坊小路界隈の魅力を探ってみました。

連坊駅周辺はまた、長い歴史と伝統を誇る名門校が集まる文教地区でもあります。明治19年開校の連坊小路小学校。明治25年に宮城県尋常中学校として創立し、「大言海」の大槻文彦を初代校長とする現在の宮城県仙台第一高等学校。前身が明治37年創設の東華高等女学校である現在の宮城県仙台二華中学校・高等学校がそれです。

かつて道幅が狭く、店舗が軒を並べていた通りも、道路の拡張に伴ってその装いを一新しました。しかしながら、伝統の手作り七夕は今も夏の風物詩であり、連坊商興会の顔として地域に元気を与えています。その七夕飾りも一時は中断を余儀なくされたとのこと。しかし、平成15年に40年ぶりに復活し、特にここ三年は連続で団体金賞を受賞して、商興会の大きな励みになっていくようです。笹竹は地元のお寺さんから調達、七夕祭りに関連してチャリティ茶会や納涼コンサートを大々的に開催、最近ではバスツアー客を受け入れる等、まさに伝統七夕で地域ぐるみの町おこしです。商興会が65周年を迎えた年に、合わせて地下鉄東西線が開業したのは実に嬉しいこと。昔に比べれば店の数は半分以下に減っていますが、人の流れを変えて商店街を活性化したい」と会長の武田宏さんは声を弾ませて語っていました。

地域の話



地域に根をおろし、30年以上も活動が続いている「七郷ひまわりの会」

活動は

- いつ? 毎週月曜日(祝日等は休み)
- どこで? 七郷市民センター 2階
- なんじ? 10:30~12:00
- だれと? 0歳~未就園児
- かいひは? 月300円(兄弟会員100円)

メッセージ

お買い物ごっこに外遊び、季節ごとに行事を計画したりして、ママたちも一緒に楽しめる会にしています。ぜひ一度、遊びにきてみてください!

地域に根づいて 七郷市民まつり

以前から聞き及んでいた七郷市民まつり。震災で痛手を受けながらも途切れることなく32回目を迎える今年は、またどんな盛り上がりを見せるのだろうと、昨年11月22日(日)、会場の七郷市民センターに初めて足を運んでみました。

当日は、地下鉄開業イベントが荒井駅でも行われていたにもかかわらず、また、好天にも恵まれて、かなり大勢の住民で会場はいっぱいでした。近くのテントで謝恩即売をしていた地域の方に聞いてみると、この賑わいはいつも通りで、震災後、2日間から1日だけの催しに変更になった分、より密度の高い中身を目指しているとのこと、おまつりにかける意気込みや熱い思いが伝わってきました。

催し物会場を一通り見て回りましたが、どこも人であふれ、いかに地域に根づいているかがわかりました。特に家族連れや若者の参加が多いのに驚かされました。会場も、センター前広場(駐車場)、荒井4号公園、センター各室、体育館と広範囲で、楽しいブースが盛り沢山。内部は大人中心の演芸発表や展示、外部には子どもが遊べるコーナーを多く設ける等、老若男女が楽しめる工夫もよくなされていると感じました。消防隊のちびっこレスキュー体験や公園でのやぎとのふれあい体験に大喜ぶ子どもたちの笑顔がまだ印象に残っています。

地下鉄開業や宅地造成の進展で、新しい町づくりが始まっている七郷地区。住民同士の交流の場、人と人をつなぐ場として、七郷市民まつりはますます大切なものになるでしょう。(菅井・志子田 記)

まち協だより 「第27回若林区民ふるさとまつり」開催

平成27年10月18日(日)、秋晴れのもとに「若林区民ふるさとまつり」が開催され、例年以上のご来場者で賑わいました。

テーマは「いま 生まれ変わる わかばやし ワクワドキドキ ふるさとまつり」でした。今回も新しい企画がいくつか見られ「進化し続ける若林区民ふるさとまつり」になりました。子ども神輿が会場内を元気な声で回ったり、Nゲージという鉄道模型のコーナーは親子連れで賑わいました。地下鉄東西線の開業イベントとして藁で作るマンモスのための藁編みコーナーも、多くの方に協力していただけました。ステージでは区民の踊りや歌声、菊地区長のサプライズ演奏もあり盛り上がりしていました。スタンプラリーなどは参加者が多すぎて景品が足りなくなり、大変だったようです。

平成28年度の若林区民ふるさとまつりは、今回までの会場が工事のために一部使用できなくなるので、これまでとは違った会場設定のまつりになる予定です。次回も、ご期待ください。(西條 記)



▲ふるさとまつり私の作品展



▲ふるさとまつりステージ

若林区まちづくり協議会

事務局

若林区役所まちづくり推進課内
〒984-8601 若林区保寿院前丁3-1
TEL 282-1111

会報プロジェクトメンバー

リーダー 勝又久雄
西條芳郎
菅井てるみ
引地よし
志子田喜恵子

編集後記

長年の夢であった地下鉄東西線開業。若林区に五つの駅が出来るといって様々なイベントが企画されました。その一つ、開業式典が12月6日ということで、編集日程も今年は年末、年始になりました。イベント参加者の皆様、編集に携わった皆様、寒い中、本当にお疲れ様でした。(プロジェクトリーダー 勝又 記)

開業イベントへの協力に感謝

実行委員長 早坂 隆

平成27年3月より実行委員会を立ち上げ、若林区内の各方面の方々約30名にお集まりを頂きました。全体のコンセプトは、東西線のいいところを実感でき、若林区の魅力を再発見すること。区外からも多くの方々に訪れて頂いた各種イベントは、震災から5年目を迎える今、復興のシンボルとなったことでしょう。

「わくわくドキドキ!!5感で楽しむ若林」というキャッチフレーズに決定し、宮城野通駅から荒井駅まで6駅でまち歩きを開催することになりました。また、荒井駅前の田んぼに、高さ5メートルのマンモス、3メートルのトリケラトプスをわらで作り、区内全小学校17校の協力も頂きながら完成させることができました。また、卸町にはネッシーならぬわらのオロッシーやわらの東西線電車も出現し、わらアートとしての芸術性と若林区らしさを表現できたものと感じています。

まち歩きコースの寺社仏閣の方々や御商センターの理事長はじめ関係者の皆様、また荒井駅に隣接した田んぼ関係者の方々に厚く御礼申し上げます。特にボランティアの学生の皆様には、献身的な働きをして頂き、深く感謝申し上げます。



わらによるテープカット



開業イベントで賑わう荒井駅北口

地下鉄東西線開業イベントで 若林区の魅力発信!

実行委員会各チームの熱き思い

昨年12月6日に開業した地下鉄東西線。それを祝い、さらに若林区の魅力を発信すべく、若林区まちづくり協議会では開業イベント実行委員会を立ち上げました。キャッチフレーズは「わくわくドキドキ!!5感で楽しむ若林」。まち歩き班、アート班、式典班のそれぞれが、震災復興のシンボルにもなるようなイベントにと、若林区らしさを精一杯表現しました。

寒さを吹き飛ばす式典模様

式典班長 平間 敏春

当初、式典を荒井駅で開催することは決まりましたが、どの場所で行うかについては、使用許可の関係もあり難航。また、12月に入り天気が安定せず気をもみました。最終的にわらマンモスのある北側で行うことに決定しましたが、当日はやはり気温が低く、ストーブを用意したにもかかわらず駅舎北側のため、思った以上に寒く感じました。このような状況にありながらも、スタッフの献身的な協力を得て、式典を無事迎えることが出来ました。

式典については、来賓の挨拶に続くグランドオープンのわらカットで特色を出しました。さらに、寒さを吹き飛ばすような六丁の目の和太鼓お囃子会様、六郷すずめっこ様によるパフォーマンス。うみの杜水族館の公式キャラクターのモーリーの参加、七郷農協様、産直広場ぐるぐる様、ReRoots様にも出店協力していただき、当初考えていた以上の多くの方々のご来場により、大変盛り上がりました。また、子マンモスは、式典の広報活動以外にもイベント全体のPR効果を相乗的に高めることが出来たと思います。

協力していただきました多くの方に、この場をお借りして御礼申し上げます。

若林の魅力 再発見

まち歩き班長 米倉 正子

歴史と豊かな自然、そして都会と田舎がうまく混合している若林区。まち歩き班では、この魅力を発信すべく地下鉄東西線6駅を起点とする10のまち歩きコースを考えました。

開業前の11月には、卸町・薬師堂・連坊の3コースが実施され、若林在住のスタッフがガイドを務め、地元ならではの話題を披露しました。見学ばかりでなく、体験も交え、今まで知らなかったまちの顔を発見できたと思います。また、若林野菜を使ったスープや、地下鉄沿線のお菓子の提供もあり、食の魅力も伝えることができて大好評でした。

12月には、お寺巡り。薬師堂から区役所までの「薬師高砂堀通り」を歩き、秘蔵の涅槃図を特別公開してもらうコースや、宮城野区との共催でたくさんのお寺をまわるコースなど、歴史好きにも満足のいくものでした。

更に、今後は、地元のお神楽を鑑賞したり、ウォーキングの基礎を学ぶなど、他のまち歩きとはひと味違うものが3月末まで続きます。

先人の生きた歴史や技を知りながら、それを今の生活に活かし、未来につなげる…まち歩きには、そんな壮大なストーリーを考える力があります。地下鉄開業で、行動範囲も広がります。地元愛満載のまち歩き、是非ご一緒しましょう!

わらアート“空想動物園”

アート班長 竹野 博思

どのようなイベントを開催するか……アート班会議で心掛けたことは、若林区の魅力をPRできるイベントにすること。区内には街があり、海があり、田んぼがあり、畑がある。当初は海を意識した企画を立案しましたが、実行には難しい部分があり断念。委員の一人である一般社団法人ReRoots代表の広瀬剛史さんが、以前着手されたことのある「わらアート」の話をされ、班委員全員が賛同。一挙に企画が進みました。

被災され、大変なご苦労をされた農業関係者のご努力の結果、おいしい新米を育むことができた稲藁の使用は、まさに復興の象徴であること。さらに、作品素材の藁束作りに区内数多くの小学生が携わってくれたこと。これは子どもたちにとっては地域の魅力を再発見する契機になると期待されます。この二つがベースコンセプト、開催意義です。

最後に、この実行委員会の素晴らしさをお話したい。実行委員一人ひとりが様々なジャンルのプロであり、そのプロ集団が仕事の垣根を越え、叡智を集積させた結果が成功の要因であると推測します。だからこそ、数ある開業イベントの中でも、このイベントが代表的なランドマークになったと確信します。

わらアート制作にかける思い

わらアート提案者 広瀬 剛史

地下鉄東西線開業イベントの内容にわらアート制作が決まったとき、被災からの地域おこしとして注目を引き出せるとワクワクし出した。

わらアートは、農村地域の特徴である田園風景のワラと、震災復興のシンボルとしてあるワラを活用することで、若林区の魅力を発信するとともに人を呼び込むアート作品としてある。だから妥協しないで大きなものを作り、見栄えもきれいになるように丁寧に編み込もうと、自然と熱が入る。

自宅で計画になかった子マンモスの骨組みを作り、ワラを付け、軽トラックの荷台にのせて仙台市内を走り回って宣伝しようと考えたのは、わらアートのワクワク感にほだされた思いが実行委員の体を自然に動かしたからだ。

制作にあたっては、地域の農家からワラを提供していただき、学生ボランティアがワラ集めやワラ編み、ワラつけ作業に従事し、地域の小学校の協力も得て児童たちがワラを束ねた。児童や地域からも期待感を感じ、制作風景を見学にくる方々の応援に、手ごたえを感じていく。

今回は地下鉄東西線の開業イベントとしてだったが、そもそもワラは農家にとってワラ縄や堆肥など身近なものであり、私たちの主食であるお米でもあり、祭りやお正月のしめ縄にもなる生活材である。いずれは、農作物の豊作を祝う地域文化として定着していければと期待している。



マンモスと3本のツノ恐竜トリケラトプス

平成28年度 若林区まちづくり協議会の行事予定

4・5月
役員会・総会

7月
若林区
合唱のつどい

8~11月
若林区スポ・レク
フェスタ

7~翌3月
「ラヂオ
はいらいん若林」
放送

10月
若林区民
ふるさとまつり

3月
「はいらいん若林」
vol.20発行

76.2MHz
ラジオ3にて毎週土曜日
午前10時から

※詳しくは「市政だより」「若林区ホームページ」等でご案内いたします。 ※実施内容・時期については変更となる場合があります。